

## [呼吸器内科]

### [研修の目的]

当院の臨床研修カリキュラムとして、内科・呼吸器内科の領域において、知識を深めるとともに実践的な診療を経験する。

### [研修指導者]

佐藤 潤(呼吸器内科部長)

日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医、結核・抗酸菌症指導医、日本救急医学会専門医、ICD、ICLS インストラクター、JMECC インストラクター

小笠原隆（呼吸器内科医長）

日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、ICD

小澤雄一（呼吸器内科医長）

日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医、日本アレルギー学会専門医、日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法指導医、日本感染症学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医、

丹羽 充(呼吸器内科医長)

日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医

松山 亘（呼吸器内科副医長）

日本内科学会認定医

赤堀大介（呼吸器内科副医長）

日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医

### [研修コース]

初期臨床研修プログラム（基幹型臨床研修病院、協力型臨床研修病院）

1 年次 内科系の研修である必須内科、選択内科として呼吸器内科の研修

2 年次 自由選択として呼吸器内科の研修

### [研修指導体制]

(1)研修医は、病棟では担当医の1人として、指導医の管理下で入院患者の診断、治療に従事する。

(2)外来研修では病歴聴取と理学的所見の評価など、診断と基本的治療の習得を治療医の管理下で行う。

(3)医学部学生の臨床実習では、担当となった学生の教育、指導を指導医の監督下で行う。

#### [研修内容および到達目標]

##### (1)一般目標

呼吸器内科疾患の診断および治療に関する基礎知識、基本的な技能を習得する。

##### (2)行動目標

- A) 呼吸器疾患の患者さんの診察を行なうため、患者および関連者と良好な人間関係を確立し、面接技能により身体的、心理的、社会的情報を得る。
- B) 呼吸器内科的な診察を指導医の監督下で実施する。
- C) 呼吸器内科で行われる検査の計画を立て、それに基づいた検査の施行を補助し、結果を理解する。
- D) 呼吸器疾患の基本的治療を理解し、治療計画を立て、指導医の監督下に治療に参加する。また、症例カンファレンスに積極的に参加する。

##### (3)研修目標

###### A) 実習すべき主要疾患

- 1) 感染症                      細菌性肺炎、非定型肺炎、抗酸菌感染症、真菌感染症、PCP など
- 2) 悪性腫瘍                    非小細胞肺癌、小細胞肺癌、胸膜腫瘍、縦隔腫瘍など
- 3) 胸膜疾患                    自然気胸、胸膜炎（膿胸を含む）
- 4) 間質性肺疾患                特発性間質性肺炎、膠原病性、サルコイドーシス、器質化肺炎、好酸球性肺炎、過敏性肺炎など
- 5) アレルギー疾患              気管支喘息、EGPA、ABPA など
- 6) 気道疾患                    COPD、慢性気道感染症など
- 7) 慢性呼吸不全
- 8) 肺循環障害
- 9) 呼吸調節障害                睡眠時無呼吸症候群

###### B) 研修すべき診断、検査法

内科的、専門的身体診察法

一般血液、尿、喀痰検査法、動脈血液ガス分析

診療録記載法

肺機能検査、6分間歩行試験

胸部画像検査(X線、CT、MRI、PET、骨シンチ、Gaシンチなど)

気管支鏡検査(BAL,TBLB、EBUS-TBNA、EBUS-GS)

睡眠時ポリソムノグラフィー(PSG)  
胸腔鏡検査  
胸腔穿刺、胸腔ドレーン留置・管理  
生検(CTガイド下、超音波ガイド下など)  
細菌検査、抗酸菌検査  
病理組織検査、細胞診検査  
心臓超音波検査  
肺血管造影術、気管支動脈造影術  
胸腔鏡下肺生検

C) 研修すべき治療法

末梢静脈確保  
輸液、栄養管理法  
呼吸リハビリテーション  
感染症に対する抗菌薬投与  
酸素投与、在宅酸素療法  
肺癌薬物療法  
胸膜癒着術、胸腔ドレナージ療法  
緩和治療  
放射線治療  
人工呼吸管理  
経鼻的持続陽圧人工呼吸療法(CPAP)  
気管支動脈閉塞術

D) チーム医療の実践

多職種によるチーム医療 (ICT/AST、RST、NST) に参加する

[初期研修終了後の指針]

初期研修終了後、内科専門医を取得する希望がある場合は、内科専門医プログラムへ参加し、当院または他院にて後期研修を行う。